



# 土壌病害 センチュウ類 一年生雑草の 防除に

## ディ・トラベックス® 油剤



- 土壌病害、センチュウ類、一年生雑草に優れた効果を発揮します。
- 刺激臭が比較的少なく**、使いやすい薬剤です。
- 周辺作物に対して影響の少ない土壌くん蒸剤です。



褐色腐敗病



ネコブセンチュウ



炭疽病



萎黄病



ネグサレセンチュウ



萎凋病



立枯病



一年生雑草



根こぶ病



半身萎凋病

### 一般的な使用方法

#### 畑の準備

ていねいに耕起・整地し、前作の根などを除去する。

#### 処理

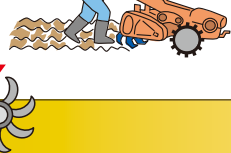
30cm間隔のチドリ状に、深さ12~15cmに処理し、直ちに覆土・鎮圧する。



↓ 地温15℃以上のとき

#### ガス抜き

処理した土壌に、未消毒の土壌が混ざらないよう注意しながら、ロータリーなどでていねいにガス抜きをする。



ガス抜き不十分のとき

#### は種・定植

ガスが十分抜けたことを確かめてからは種または定植する。



7日以上

14日以上

# 土にやさしい 土壌くん蒸剤 ディ・トラペックス® 油剤

●農林水産省登録：第13488号  
 ●毒性：劇物  
 第二石油類・危険等級Ⅲ  
 火気厳禁・キシレン

メチルイソチオシアネート(MITC)・・・20.0% D-D(1,3-ジクロロプロペン)・・・40.0%

## ■適用病害虫・雑草の範囲と使用方法

2016年11月現在の登録内容

作物名	適用病害名	10アール 当り 使用量(ℓ)	適用 雑草名	10アール 当り 使用量(ℓ)	適用 害虫名	10アール 当り 使用量(ℓ)	使用時期	使用 回数*
しょうが	根茎腐敗病、立枯病	30～40	一年生 雑草	30～40	セン チュ ウ 類	20～30	は種または植付の21日前まで	1回
ごぼう	萎凋病						は種の21日前まで	
ねぎ、わけぎ あさつき	萎凋病、白絹病、黒腐菌核病 根腐萎凋病	30～40		は種または植付の14日前まで				
たまねぎ	乾腐病	30～40		植付の30日前まで				
ふき	黒腐菌核病 半身萎凋病	30						
トマト ミニトマト	苗立枯病(リゾクトニア菌) 萎凋病、根腐萎凋病 半身萎凋病	40 30～40 30		30～40			は種または植付の21日前まで	
だいこん	根こぶ病、パーティシリウム黒点病 萎凋病 根こぶ病、パーティシリウム黒点病 萎凋病	30～40 30						
すいか	つる割病	30～40		30			は種または植付の14日前まで (砂質土)	
メロン								
ほうれんそう	萎凋病 苗立枯病(ピシウム菌) パーティシリウム萎凋病	40 30		30～40			は種または植付の30日前まで	
かぶ	根こぶ病、パーティシリウム黒点病 萎凋病	30～40						
らっきょう	黒腐菌核病、根腐病、乾腐病	30		30			は種または植付の21日前まで	
にんにく	乾腐病、紅色根腐病、黒腐菌核病	30						
キャベツ	パーティシリウム萎凋病 萎凋病、根こぶ病、菌核病	40 30～40	30～40	は種または植付の30日前まで				
はくさい	萎凋病、根こぶ病 黄化病	30						
いちご	疫病、萎凋病 萎凋病、炭疽病	30～40	30	は種または植付の21日前まで				
きく	半身萎凋病、萎凋病	30～40						
茶	白紋羽病 苗根腐病	50	30	は種または植付の21日前まで				
きゅうり	つる割病	30～40						
にんじん	萎凋病、しみ腐病、黒しみ病	30	30	セン チュ ウ 類				
なす	萎凋病、半枯病、半身萎凋病	30						
こんにゃく	乾腐病、根腐病、白絹病	30～40	30～40	イシユク センチュウ				
やまのいも	褐色腐敗病	30						
カーネーション	萎凋病、萎凋細菌病	—	30	セン チュ ウ 類				
つつじ類	—	—						
たばこ	黒根病 立枯病	20～30 30～40	30～40	20～30				
レタス 非結球レタス	根腐病 パーティシリウム萎凋病	30						
花き類・観葉植物 (カーネーション、 さくを除く)	萎凋病※、萎凋病※、球根腐敗病※、 苗立枯病※、尻腐病※(※フザリウム菌) 腐敗病、乾腐病、萎縮病 半身萎凋病	30	30	は種または植付の21日前まで				

●使用方法：圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。ほうれんそうの場合は、所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。ただし、だいこんのは種または植付の14日前までに砂質土において使用する場合は、7日後に行う。

\*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。 \*\*きく・センチュウ類はハガレセンチュウを除く

## 注意事項

### 処理前

1. 土壌中にガスを十分拡散させるため、耕起、整地はしていないで行って下さい。
2. 生育中の作物には薬害がありますから使用しないで下さい。
3. 花き類・観葉植物に使用する場合は、本剤はフザリウム菌による病害に対し効果があり、同じ病名であっても病原菌が異なるものもありますので注意して下さい。
4. 処理前にアルカリ性肥料、とくに石灰などを施用すると薬害を起こす恐れがありますので、肥料はガス抜き後に施用して下さい。
5. 火気に近づけないで下さい。
6. 本剤の使用に当たっては圃場の立地条件、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
7. 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
8. ミツバチの巣箱周辺での使用は避けて下さい。

### 処理時

1. 地温が低いと効果が劣りますので、地温15℃以上の時になるべく使用して下さい。やむを得ず10℃以下で使用する場合には、ガス抜きまでの期間を長く(14日以上)し、ガス抜きをていねいにして下さい。
2. 本剤で処理後のくん蒸中の土壌表面は、ポリエチレン、ビニール、濡れむら等で被覆するか、または1m<sup>2</sup>当り5～10ℓの水をまいて水封するとより効果的です。
3. 本剤は使用前に蓋をあげ、使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
4. 茶葉を収穫する茶樹成本には使用しないで下さい。また、茶樹幼木に使用する場合は、翌年に茶葉を収穫しないで下さい。

### 処理後

1. 作付は薬害を避けるためガスが抜けたことを十分確かめてから行って下さい。地温が10℃以下の時、重粘土質で通気の悪い時、降雨など土壌水分が多い時はガスが抜けてくいで、ガス抜きを丁寧に行い、注入してから植付けまでの期間をさらに約1週間長くして下さい。とくに茶のセンチュウ類防除の場合は低温時の処理となりますので、14日後にガス抜きを行い、さらに14日以上おいてから植え付けて下さい。
2. だいこんは本剤のガスに対する感受性が強く、岐根等の薬害を生じやすいので、ガス抜きは完全に行うように十分注意して下さい。使用量が多い場合には2回以上ガス抜きをするなど、できるだけ深く切り返しを行って下さい。粘土質の割合が低い砂質土(砂土、壤質砂土)では本剤のガスは抜けやすく、ガス抜き7日後の作付けが可能です。粘土質の割合が砂質土よりも高い砂礫土以上の土性においてはガス抜きからは種までの期間を長く(ガス抜きが複数回の場合は初回から14日以上)とるようにして下さい。
3. 本剤で処理した苗木、圃場に消毒されていない土壌を混入しないよう十分注意して下さい。
4. 使用後注入器などは錆を生じやすいので、灯油、石油等でよく洗って下さい。

### 安全使用上の注意事項

- 医薬品・劇物等の、取扱いは十分に注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性がありますので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、医師の手当を受けて下さい。
- 本剤は皮膚に対して刺激性がありますので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。

- 本剤の投薬作業の際は吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク、不浸透性手袋、保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用して下さい。また、薬液が皮膚に付着したり、揮散したガスを吸い込んだり、薬液やガスが眼に入ったらないよう注意して下さい。ガス抜き作業の際にも同様の防護マスク、保護眼鏡を着用して下さい。
- 作業に際してはガスに暴露しないよう風向き等をも十分に考慮して下さい。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして、洗眼するとともに衣服を交換して下さい。また、作業時着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の方は取扱いに十分注意して下さい。
- 作業中およびくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意して下さい。
- 住宅付近では使用しないで下さい。
- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがありますので、河川、湖沼および海域等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。養殖池周辺での使用は避けて下さい。
- 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼす恐れがありますので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 危険物第4類第2石油類に属しますので、火気には十分注意して下さい。
- 火気を避け、種子、苗、肥料および他の農薬などと隔離し、直射日光が当たらない罐のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管して下さい。盗難、紛失の際は、警察に届け出て下さい。
- 居住場所または隣接する屋内には保管しないで下さい。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収して下さい。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消化剤等で消火に努めて下さい。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

## バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎ 0120-575-078

9:00～12:00, 13:00～17:00  
土・日・祝日を除く

F-2038/16.11.ZN